

学校だより

Vol.

117

2024年11月発行
(2024.4~2024.9)

Contents

- 02 入学式 校長式辞
- 03 入学式代表学生 前期を終えて
- 04 インターンシップ報告
- 09 校内体育大会
- 10 学生の活躍
- 13 福島高専とF-REI ~連携活動状況~
- 14 アントレプレナーシップ教育の実践
- 16 TOPICS
- 18 国際交流
- 19 オープンキャンパス春・夏・秋・冬を開催
- 20 学生学習支援センター、学生保健センター
- 21 地域貢献
- 19 "最新"KOSENコモンズ
- 24 三主事・専攻科長あいさつ
- 25 学科の近況
- 27 新任教職員紹介



独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Fukushima College



第63回 入学式

第六十三回入学式 及び

令和六年度編入学式 並びに
第二十回専攻科入学式 式辞（要約）

福島工業高等専門学校

校長 田口重憲

新入学生205名、編入学生5名、専攻科生23名の皆様の福島高専への御入学をお慶び申し上げます。保護者の皆様には、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。

さて、本校では、皆さんが勉強するにあたり、「三つの教育理念」を定めています。

本校の教育理念の第一は、「広く豊かな教養と人間力の育成」です。どのように人々の幸福に役立つかを考えるためには、幅広い教養と倫理観、さらに、人生における様々な困難に打ち克つ人間力を育成することが重要です。そして、この教養と人間力が、変化が著しい現代社会を生き抜く力、AIに取って代わられない力になることを意識し、自らも広く豊かな教養と人間力の育成に励んで下さい。

教育理念の第二は、「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。福島高専では、学科横断的な授業や地域貢献活動への参加を通して実践的な人材を育成しています。皆さんには、創造性と実践性を兼ね備え、変化の著しい次世代社会で活躍できる人材に育ってほしいと思っています。

教育理念の第三は、「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。異なった環境に住む相手の考え方を理解した上で、その相手とコミュニケーションをとれる能力を身につけて欲しいと思っています。

さて、この三つの教育理念を達成するため、皆さんにはこれからの五年間、次の「四つの心構え」を念頭において勉強して下さい。

まず、第一に、「ルールを守る」。当たり前のことですが、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活出来るように努力して下さい。そして、この習慣が社会における信用・信頼の基礎にも成ります。「ルールを守る」こと、しっかり心がけて下さい。

第二に、「自ら学ぶ」。授業で教えてもらうだけで



はなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを質問して確認する姿勢が重要です。高専では、予習や復習を行わない限り、勉強についていくことは困難です。常に目標を持ち、勉学の動機を失わず、能動的に勉強して下さい。日々の取り組みを欠かさないと重要です。人の能力の差は、日々の努力で生じるということ意識して下さい。

第三に、「挑戦する」。課外活動やインターシップだけでなく地域貢献にも挑戦してみてください。高専では、様々な活動に参加する機会が与えられます。自らの学業と両立させながら様々な活動に参加し、コミュニケーション能力や集団や組織での活動能力や身につけて下さい。

第四に、「支え合う」です。お互い助け合いながら、高専生活を過ごすため仲間を作って下さい。高専在学中の友人やクラスメート、クラブ活動の仲間は、一生の友人になりますし、そのような中で人間力が育かれます。そして、その人間力が次世代を生き抜く力になることを忘れないで下さい。

次に、専攻科への入学生諸君。皆さんは、本科五年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶこととなります。専攻科学生の先輩たちは、これまで、学会などで他大学の学部学生はもちろん大学院の学生と競い合ってきました。そして、専攻科二年の課程を終え、学位審査に合格すると、学士の学位を得ることとなります。その時点で、皆さんは、実際には、学部レベルを超える専門能力を得ているものと信じています。また、皆さんには、グローバル化の時代にあって、留学や海外インターンシップなどに挑戦し、国際的に活躍する基礎を育てて頂きたいし、これからの社会を生き抜けるよう、広く豊かな教養と人間力を更に磨いていただきたいと思います。後輩達の良き手本となることを期待しています。

学生諸君、人生を築くのは皆さん自身です。人は意志と努力によって人生を作り上げることができます。しっかりした自らの「意志」を持って、これからの学生生活を歩んで下さい。



前|期|を|終|え|て



本科入学生代表

ビジネスコミュニケーション学科

岡崎 衣舞

入学から半年がたち、一日一日があっという間に過ぎるように感じます。新しい環境になってから期待と共に不安もありましたが、慣れると高校生になってからできることも増えたため毎日が充実していると思います。中学校の頃と比べて、学校に売店や自販機があったり課題の提出やメールの確認にスマホやパソコンを使ったり、すごく便利だと思いました。でも、大事なメールの確認を忘れないように気をつけないといけないなと思いました。できることが増えた分自分でしっかりやらなければいけないことも増え、今までは呼びかけなどがあった日程や課題の管理を自分でするため、時間をうまく使うことがより大切だと感じました。学習面では、授業時間が長く感じてしまうけれど毎時間楽しく、学べる内容が深く広くなった気がします。その分テストも難しくなったように感じるため、テスト勉強も工夫しないといけないなと思いました。

後期には体育祭や磐陽祭も控えていて、楽しいイベントもテストもあるので前期のことをふまえてより頑張りたいです。



専攻科入学生代表

ビジネスコミュニケーション学専攻

ビジネスコミュニケーション学コース

荒川 桃花

入学式から早半年が経ち秋風が心地よい季節となりました。専攻科生としてのスタートを切り、新たな環境で授業や課題、特別研究に勤しみました。専攻科の授業は他の専攻との合同授業も多いため、コースの壁を越えて新しい友達も作り、充実した日々を過ごすことができました。

私はこの前期で短期留学生のチューターを行ったり、アメリカのハンフォード地域から福島県に派遣された学生のホストファミリーになったりと国際交流活動にも注力しました。さらに、自分自身も何か新しいことに挑戦したいと考え、長期休暇と高専のプログラムを利用し、海外インターンシップの実施を決意しました。日本とは環境が異なる海外での3カ月間の生活は大きな挑戦であるとともに成長の機会でもあります。自分自身を見つめ直し将来に活かせる有意義なインターンシップにしたいです。

また、残り1年半の専攻科生活ではより多くの人と関わり視野を広く持ち、卒業後に役立つ知識と経験を積みたいです。

インターンシップ報告

本校では、4・5年生と専攻科1年生に、「校外学習」「インターンシップ(A.B.C)」などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれ学生が理解することを目的としています。

インターンシップ先となる企業は個人でエントリーする場合がありますが、本校で4月に開催している「インターンシップマッチング」というイベントを通して、地元企業についても知識・理解を深めています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。

- Q1：今回の実習先を希望した理由を教えてください。
- Q2：配属先はどのような業務を担当する部署でしたか？
- Q3：どのような内容を実習しましたか？
- Q4：実習先で学んだこと、気づいたこと等の感想を教えてください。

機械システム工学科4年 笠間 一希

実習先企業名：シチズンマシナリー株式会社
(工作機械メーカー)

実習期間：8月20日～30日(9日間)

A1：私は学校の実習で工作機械を使ったことがきっかけで工作機械について興味を持ちました。また、学校の授業としてではなく会社で仕事としての設計を実際に行ってみたかったため、シチズンマシナリー株式会社のインターンシップに参加しました。シチズンマシナリーは「個の量産」をコンセプトに様々な顧客のニーズに応えることができる自動旋盤を開発、生産しています。

A2：私が配属されたのは埼玉県所沢市にある所沢営業所の中にある開発部でした。業務内容はその名の通り新機種の仕様検討・構想設計を行い、試作機から量産機まで開発している部署です。

A3：まず、3DCADや解析ツールを使いながら演習として実際の部品の補強設



計を行いました。このとき、インターン生同士で自分の設計の意図を説明し互いの設計についてのレビューをしました。次に長野県御代田町にある本社の工場を見学しました。配属された部署では、工作機械の心臓部である主軸の設計を実際より簡略された条件で行いました。この際、ベテランの社員さんに自分の設計意図を伝え、それに対するフィードバックを頂きました。

A4：9日間のインターンシップで実際に業務を体験し、開発部の人に様々な話をうかがうことができました。その中で設計・開発はその機械を実際に使用する人達だけでなく製造する人へも配慮しなければいけないことが多くあり、大変な業務だと改めて感じました。しかし、私は大変さ以上に、こだわりを業務に出せる点に魅力を感じ、将来開発・設計業務に携わりたいと思いました。



電気電子システム工学科4年 石井 翔瑛

実習先企業名：ルネサス セミコンダクタマニュファクチュアリング株式会社 川尻工場

実習期間：9月3日～6日(4日間)

A1：半導体ソリューションのルネサスエレクトロニクス株式会社の完全子会社である川尻工場にてインターンシップに参加させていただきました。

もともと半導体業界に興味があり、製造技術や実際の業務を学べたらと思い、このインターンへの参加を決めました。

A2：川尻工場を簡単に紹介すると、半導体製造の前工程、主にウエハの加工からそのテストまでを行っている拠点です。車載用のマイコンを中心に汎用マイコンなど、身の回りの電子製品を支えている企業で、私はインターンの期間、生産技術部で、成膜技術を中心とする拡散・CVD技術課でお世話になりました。ウエハ上に絶縁膜を形成し、その膜質や膜厚を調べて異常がないか確かめています。均一に膜を形成できないと、ダイシング後にチップごとにばらつきが生じてしまい、不良品につながってしまうため、早い段階で不良を防ぎコストを抑えることが必要になるそうです。

A3：プラズマやガスなどの技術や原理、各種装置の紹介や、クリーンルームに入っただけの見学・実習をさせていただきました。出来栄改善のために装置パラメータを変更したり、不良品の画像解析を行ったり、プロセスエンジニアとしての業務の一端に触れることができました。

A4：川尻工場のある熊本市は、水道資源を100%地下水で賄う地下水都市です。川尻工場は産業廃棄物を100%再資源化、水資源の再利用率が99%と、地下水の保全にも努めておられ、私がこれまであまり意識していなかった

「持続可能な社会」への貢献を考えさせられました。また、不良品を早い段階で徹底的に排除するために、ウエハの加工だけで数百にも及ぶ工程を経ており、自分が考えている以上に厳しい業界なのだ学びがありました。

現場のエンジニアとお話させていただいて、たくさんの発見がありました。熊本県内外様々なところから来られた従業員の方々もいらっしゃいましたが、地域柄の人の好きさを感じました。壁がなく、相談しやすい職場を作る工夫もなされていて、魅力的な会社でした。こんな会社で働きたいな、と思えるイメージがひとつできました。

他の半導体工場にもお世話になる機会がありましたが、比較しても川尻工場は、社員の方々の距離の近さ、課を超えたコミュニケーションが印象的で、成長したい人が成長できる環境だと思いました。

しかし同時に、職場というものの現実的な側面も目の当たりにし、自分の「学生感覚」を自覚するいい経験となりました。

台風の影響で本来5日のインターンを4日間に凝縮して実施することになってしまいましたが、濃密な時間を過ごすことが出来ました。素敵で貴重なインターンの時間を過ごさせていただいて、感謝が尽きませんが、この経験を無駄にせず、今後の自分のキャリア、どんなエンジニアを目指すのか向き合う、そのための大切なきっかけになりました。



化学・バイオ工学科4年 大橋 そよ

実習先企業名：株式会社アルピオン 熊谷工場

実習期間：8月19日～23日（5日間）

A1：私は中学生のとき、将来化粧品を作りたいという志望理由で高専に入学しました。そして4年生になった現在も化粧品会社への興味が強くあったため、大手化粧品会社のアルピオンへのインターンシップを決めました。

A2：特定の部署というわけではなく、日によってさまざまな課を回りました。

A3：原材料を用いて1から製造し、発送するまでの工程を学びました。化粧品の製造プロセスを見学し、大型の機械、小型の機械を駆使し、1日数千から数万個の生産をしていました。また、リップスティックの製造を体験させていただき、細かい技術のためにたくさん時間をかけて開発していることを



学びました。

A4：今回のインターンシップを通じて、化粧品製造の細かな工程や品質管理の重要性を学びました。工場の一連の効率的な生産ラインの運営には、チームワークと細密な管理が欠かせないことに気づきました。機械化により、自動化が進む中で、そこに人の手が加わることで機械では難しい細部へのこだわりが実現されていました。そして、徹底した品質管理を通じて製品の信頼性を確保するための注意と、経営理念でもある高級化粧品の責任を実感できました。今日、現場での経験を通じ、働くという環境に触れたことで、責任感や主体性の大切さを強く実感しました。また、学校での学びをより実践的に活かす視点が得られ、今後の学習や生活に対してさらに積極的に取り組む姿勢が身についたと感じています。



都市システム工学科4年 大谷 幸詩

実習先企業名：五洋建設株式会社

株式会社郡山測量設計社

実習期間：五洋建設 8月26日～30日（5日間）

郡山測量設計社 9月2日～6日（5日間）

A1：将来土木のどの職種に就きたいのかイメージ出来ずにいたため。

A2：五洋建設：依頼された構造物の施工を安全かつ円滑に進める。現場作業なども含む。

郡山測量設計社：構造物の維持管理、設計、測量等。

A3：五洋建設：現場巡回、動態観測、作業が完了した箇所の写真撮影、掘削によって発生した支障物や埋め戻しに用いる土の数量計算、CADを用いた製図、光波測量
郡山測量設計社：ドローン操縦、三次元測量とデータ処理、デジカメによる3Dモデル作成、自動追尾TSを使用した路線測量、現場の設計後の成果確認、BIM/CIM

A4：実習を通して、今まで漠然としていた仕事へのイメー

ジが明瞭になりました。また、実際に現場で作業をしてみて、現場での業務の厳しさを肌で感じる事が出来ました。そのときは、現場の社員や作業員の方々がたくさん話す機会があり、私はうまく話すことが出来なかったため、コミュニケーション能力が非常に大切だと感じました。また、学校で習ったことをいざ現場で行った際、全くうまくできなかったことから自分の未熟さを痛感したため、今回のインターンシップを通して自分に足りないものを今後の学校生活で補えるようにしたいです。



ビジネスコミュニケーション学科4年 鈴木 灯

実習先企業名：株式会社LIXIL LHT

実習期間：8月19日～23日（5日間）

A1：1つ目の理由は、私は企画や開発といった部門に興味があり、実際の仕事内容を知り、体験してみたかったからです。2つ目の理由は大手の会社である、株式会社LIXILがSDGsへの取り組みが具体的かつ大々的であることを公式ウェブサイトを知り、その内容を具体的に知りたいと考えたからです。

A2：LIXILでハウジング事業を行っているLHTという事業部でインターンシップをさせていただき、その中でも私は商品開発コースを選択しました。商品開発部門は、企画内容を性能や機能、コストなどの面で、他部署との関わりから検討していき、最終的な仕様を図面に起こす仕事を中心とします。

A3：初日はLIXILの企業理念や会社概要、事業を知るための座学が中心でした。2日目はオンラインショールーム体験や工場見学をさせていただき、製品を中心に学びました。3日目からはコースに分かれ、実際に茨城県にある2か所の工場を見学しました。実際に工場で見ることによって、座学での学びを深めることができました。4日目は組み立て研修ということで、LIXILのドアとサッシを組み立てる体験をさせていただきました。私はサッシを組み立てました。初めて電動ドライバーを使ったり、力が必要な工程があったりなど、少し大変な部分もありましたが、社員の方々のサポートや班のメンバーの協力があり、スムーズに完成させることができました。午後は、実際の組み立ての経験を生かして、新商品テーマを創出するグループワークを行いました。私たちのグループは天気予報と対応して、サッシを自動的に閉めるシステムを考えました。最終日は、高専OB、



OGの社員の方々との懇談の機会を設けていただき、私たちの質問に答えていただきました。最後のグループワークとして、新規事業提案をしました。私たちのグループではトイレで忘れ物をしないようにするシステムの提案をしました。

A4：私がLIXILへのインターンシップを希望した理由の1つである、SDGsへの取り組みの内容を多く学ぶことができました。窓を断熱性能の高いものに交換することで、エアコンを買い替えるよりも多くの二酸化炭素の排出を削減できると言われています。そのため、LIXILは断熱性能が高いサッシを普及させる活動をしています。さらに、発展途上国へのトイレ支援や、日本で唯一のアルミ100%リサイクル技術を活用して、二酸化炭素の排出を削減するなど、さまざまな取り組みが行われています。私たちの生活に深くかかわる製品が、SDGsに配慮されてつくられているということを知れた貴重な機会でした。

インターンシップに行く前は、企業の仕組みを大まかにしか知らなかったけれど、たくさんの人、部門の努力で1つの企業が成り立っているということを知ることができました。社員の方にLIXILのことだけでなく、社会人として働く心得なども教えていただきました。この経験はどの企業に就職するにも必要なことだと思います。高専生に向けたインターンシップだったため、他高専の学生や高専OB、OGの社員の方々とも関われる機会がありました。グループワークでアイデアを出し合ったり、話し合いを重ねたりすることが多く、これらの経験をこれからの学校生活の中でも活かしていきたいと思いました。とても楽しく、充実した5日間でした。支援してくださった社員の方々に改めてお礼申し上げます。



産業技術システム工学専攻 生産・情報システム工学コース1年 江尻 康太

実習先企業名：サントリーホールディングス株式会社
実習期間：9月8日～12日（5日間）

A1：食品業界のものづくりに興味を持っており、サントリーのブランド力に魅力を感じました。また、多くの高専卒の社員が活躍していることから、実際の職場の雰囲気や働くイメージを掴むために、インターンシップへの参加を希望しました。



A2：1つの部署に配属されるのではなく、複数の部署の業務を体験させていただきました。見学した工場では、清涼飲料水、ビール、ウイスキーの製造が行われており、原料の調合からボトルへの充填、さらには品質管理まで、各工程が専門の部署に分かれて製品が製造されていました。

A3：5日間の実習で京都ビール工場、大阪府の山崎蒸留所と大阪工場、兵庫県の高砂工場の4つの工場を見学させていただきました。各工場では、担当の方から業務内容について詳しい説明を受け、その後、実際の製造現場を見学して就業体験を行いました。就業体験では、製品の品質を保证するための官能検査やボトル検査を行いました。特に、官能検査では、味や香りの評価を行い、サントリー製

品のいつも変わらない美味しさを維持する重要な業務を体験しました。また最終日は、製造工程における問題の改善案をテーマにしたグループワークとインターンシップで得た学びや気づきを共有する個人報告会を実施しました。

A4：インターンシップを通して業務におけるコミュニケーション力の重要性を深く学びました。ものづくり現場では、自分が所属する部署だけでなく、他の部署との円滑かつ確実な連携が不可欠です。各部署がそれぞれの役割を果たしながら、製品品質や製造効率を向上させるためには、情報の共有や意見の交換が重要になります。

サントリーのものづくり現場には20代や30代の若い社員が多く、社内は明るく活気のある雰囲気です。非常に働きやすい環境だと感じました。また、自分たちが手掛けた製品を通じてお客様に笑顔を届けることができるという点に、ものづくりの仕事の魅力を強く感じました。



産業技術システム工学専攻 エネルギーシステム工学コース1年 水竹 巧

実習先企業名：東京電力ホールディングス株式会社
実習コース名：東京電力まるわかり！コース
実習期間：8月26日～30日（5日間）

A1：私は将来エネルギー業界で日本を支えていきたいと考えており、高専4年次に風力発電に関するインターンシップに参加しました。そこでエネルギー業界がこれからの日本に不可欠であることを実感いたしました。その学びから、私は風力発電に関する卒業研究を行い、専攻科に進学した現在も続けております。私は、志望する東京電力まるわかり！コースに参加し、特定の部門ではなく東京電力の事業全体を体験することで、自身の見識を深めることが出来ると考えました。原子力・再生可能エネルギー・送配電の3部門を体験し、実際に働いている方々を直接目にする中で技術者としての知識と心構えを身に付け、東京電力の社風を肌身で感じたいと考えたためです。

A2：東京電力は発注者として設備の設計や施工、保全にかかわる仕事と電力の契約・供給にかかわるような仕事の2種類があります。東京電力には大きく分けて4つのグループに分かれています。今回は電気を作る部門である東京電力ホールディングス、東京電力リニューアブルパワーと電気を届ける部門である東京電力パワーグリッドの体験をさせていただきました。

A3：東京電力パワーグリッドでは8つの部門のうち6つである架空

送電、地中送電、配電、変電、系統運用、電子通信についての説明、そして総合研修センターで実際に研修が行われている様子を見学しました。東京電力リニューアブルパワーでは信濃川事業所で水力発電所を見学しました。東京電力ホールディングスでは柏崎刈羽原子力発電所を見学しました。また、一週間を通して「東京電力を高専生にPRする方法」についてのグループワークを実施し、最終日に本社での発表を行いました。

A4：実習期間で最も印象に残ったのは、新人研修が充実しているという点です。自分の専門分野に限らず、一から教育してくれるカリキュラムがあると同時に、自分がやりたいと思ったことを伸ばしてくれる環境が整っていると感じました。このことから、どのような環境であっても自分自身が向上心を持っていること、そして目標に向かって研鑽することが重要であることを学びました。



産業技術システム工学専攻 化学・バイオ工学コース1年 伊藤 るな

実習先企業名：株式会社クレハ分析センター
実施期間：9月9日～13日（5日間）

A1：分析化学に興味があり県内の企業を探していたところ、クレハ分析センター様を知りました。クレハグループの製品の品質検査に限らず、環境保全・医薬分野の研究支援にも分析業務を展開されており、そのプロフェッショナルな環境に魅力を感じて実習を希望しました。

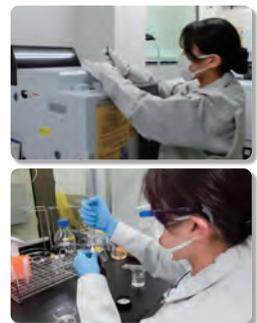
A2：私が配属された技術部は、工場の排水や作業環境中の大気、外部から依頼され届く未知試料などの中から、分析機器を使用してある成分を検出・同定して評価・報告するといった業務を担当されていました。

A3：GC/MS、HPLCといった分析機器を動かし、試料中の農薬やPCBの定量試験、未知試料中の成分の同定試験を行い、実際に技術部の皆さんが担当されている業務の一部を体験させていただきました。高専では座学の知識のみだった、とても興味深い機器を実際に触らせていただき、非常に



勉強になりました。

A4：5日間を通し非常に多くの種類の分析機器に触れる機会を用意してくださったおかげで、学校で習った分析化学の知識が実務に活かせる場面を発見できた一方、新しく学ぶ機会もとても多かったです。さらに機器の操作だけでなく、分析をかける前の手操作の精度の重要性や、分析から得られたデータの扱い方について教えていただき、信頼性を証明するのは、社員の皆様の技術の熟練度であることに気づかされました。皆さんのお話の中で最も心に残ったのは「予想から外れた結果は棄却するのではなく、そのバックグラウンドを調査し研究することで新たな発見につなげる」というお言葉でした。確立された高い精度の分析技術の上で常に発展のきっかけを探索する、その姿勢を学び、今後の自分の研究活動、社会活動に役立てていく所存です。



産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース1年 相澤 夏瞳

実習先企業名：株式会社建設技術研究所
実習期間：9月4日～13日（8日間）

A1：東日本大震災がきっかけで、将来は安全な建設物を建てるために事前の地質や地盤などの調査を行う技術者になりたいという思いがあり建設コンサルタントでのインターンシップを希望していた。



数ある建設コンサルタントの中からこのインターンシップを選んだ理由は、日本最初の建設コンサルタントであり、技術士を1300人以上有する業界トップクラスの技術を実際の実務経験を通して学び、今後の自分の成長へつなげたいと考えたため。

A2：配属されたのは東北支社地圏環境室で地質調査が主な調査であった。

中でも東北は地すべりが多い場所であるため地すべり調査が多いということを知った。

A3：

- 1日目：ガイダンス・地質断面図作成
- 2日目：委員会補助、傍聴
- 3日目：地すべり調査現地見学
- 4日目、5日目：報告書の写真整理等の内業
- 6日目：地質部門研修参加

7日目：CTIグループ技術研修会参加

8日目：空中写真判読実習

自分が行った期間はちょうど1年に1回しかない社内（グループ内）の技術発表会が2日間あったため、現場見学は1日だった。

A4：インターンシップを通して、地質部門では調査の業務が主体であるため現場に出ることや出張が多いということを知った。また、機械を動かすのは職人さん達であり、コンサル側はその工程、安全管理なども仕事に含まれていて、コミュニケーションを取ることが大切であるということも学んだ。

現場だけでなく内業も体験させていただいたので実際に就職して、この会社で働いたらどんなことをするのか具体的にイメージすることができた。

管理職になるうえで資格は欠かせないと聞きましたが、働きながら資格の勉強を行うのは難しいと感じたため、今後この業界に進むうえで必要となる勉強はコツコツと行い、実務経験が伴ったときにスムーズに取得できるようにしたい。



ビジネスコミュニケーション学専攻 ビジネスコミュニケーション学コース1年 渡辺 輝人

実習先企業名：いわき市役所
実習期間：8月19日～23日（5日間）

A1：現在公務員になることを志願しており、将来のキャリア設計のためになると考えたためです。

A2：今回配属された広報広聴課は、「広報いわき」の発行をはじめとした市全体の広報やPR活動を中心に活動して



いる部署でした。

A3：Instagramを活用した情報の発信業務の一環として、新しい「いわき市PR動画」の企画・取材・制作を担当しました。

A4：同じ市役所という組織の中でも、部署によって業務内容や空気感が全く異なり、どの部署でも活躍することができる人材を目指すことの重要性に気づきました。



インターンシップマッチングの開催

インターンシップ先となる企業の説明会として「インターンシップマッチング」というイベントを開催しています。今年度は、地元企業を中心に48社の方々にご参加いただきました。今年度、初めての取組として土曜日開催し、保護者の方も参加できるイベントとなりました。

本イベントは、企業の担当者から直接インターンシップの説明を受けることでミスマッチを減らし、双方にとって有意義なインターンシップに繋げることを目的としています。さらには、企業と学生の交流を通して相互理解を深め、地元企業への就職を促す効果も期待して実施しています。

当日は、本科4年生、専攻科1年生の学生約185名と保護者10組が参加し、複数の企業ブースで説明を受けました。次年度以降も開催予定ですので、是非、保護者の方もご参加ください。



インターンシップ協力企業等一覧 ご協力に感謝申し上げます

(学科別に順不同)

機械システム工学科

IHI運搬機械株式会社
 アルプスアルパイン株式会社
 臼井国際産業株式会社
 株式会社Helical Fusion
 株式会社U-NEXT HOLDINGS
 株式会社クレオ
 株式会社常磐エンジニアリング
 株式会社タマディック
 川崎陸送株式会社
 クリナップ株式会社
 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
 国立大学法人宇都宮大学
 三共技研工業株式会社
 シチズンマシナリー株式会社
 水ing 株式会社
 テコム株式会社
 東京ガス株式会社
 東京水道株式会社
 日本核燃料開発株式会社
 三菱重工機械システム株式会社
 村田機械株式会社
 ムラテックCCS株式会社
 ユニ・チャームプロダクツ株式会社

電気電子システム工学科

ABBジャパン
 B-Bridge.International,Inc.
 JX金属株式会社
 NECネットエスアイ株式会社
 NECフィールディング株式会社
 NTTインフラネット株式会社
 TEMS株式会社
 TMES株式会社
 TOWA株式会社
 株式会社NHKテクノロジーズ
 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー
 株式会社北拓
 株式会社レアゾン・ホールディングス
 クリナップ株式会社
 国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター
 テコム株式会社
 東京電力ホールディングス株式会社
 東京ドロウイング株式会社
 日本原燃株式会社
 東日本電気エンジニアリング株式会社
 富士フイルム株式会社
 ムラテックCCS株式会社
 ルネサスエレクトロニクス株式会社

化学・バイオ工学科

B-Bridge.International,Inc.
 JX金属株式会社

TANAKAホールディングス株式会社(田中貴金属工業株式会社)
 大阪油化工業株式会社
 花王株式会社
 株式会社アルビオン
 株式会社クレハ環境
 株式会社佐藤農園
 株式会社ファイントゥデイインダストリーズ
 株式会社名南製作所
 国立大学法人東京農工大学
 国立大学法人東北大学
 国立大学法人豊橋技術科学大学
 国立大学法人長岡技術科学大学
 国立大学法人広島大学
 堺化学工業株式会社
 城北化学工業株式会社
 第一三共ケミカルファーマ株式会社
 第一三共バイオテック株式会社
 大日精化工業株式会社
 ライオン株式会社

都市システム工学科

B-Bridge.International,Inc.
 HACO PLUS DESIGN建築設計事務所
 いわき市役所
 鹿島建設株式会社
 株式会社東コンサルタント
 株式会社郡山測量設計社
 株式会社地質基礎
 株式会社長大
 株式会社日水コン
 株式会社福山コンサルタント
 株式会社フジタ
 極東興和株式会社
 国際航業株式会社
 国土交通省東北地方整備局
 五洋建設株式会社
 水ing 株式会社
 西武建設株式会社
 月島ジェイテクノメンテサービス株式会社
 東京ガス株式会社
 東京ガスネットワーク株式会社
 東京水道株式会社
 ドーピー建設工業株式会社
 中野建設コンサルタント株式会社
 日起建設株式会社
 日本ファブテック株式会社
 東日本旅客鉄道株式会社

ビジネスコミュニケーション学科

B-Bridge.International,Inc.
 Daigasグループ4社
 NAIS株式会社
 いわき市役所

インターナショナル・ケミカル・エンティティ・ジャパン株式会社
 株式会社LIXIL
 株式会社イシダ
 株式会社さとう
 株式会社ハニーズホールディングス
 株式会社フジタ
 合同会社Ceep
 税理士法人あさひ会計
 税理士法人くちき会計
 テコム株式会社
 東京ガス株式会社
 日本ファブテック株式会社
 東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館
 福島県庁
 プライムナンバーズ株式会社
 ベトナムIPM人材株式会社
 有限会社山崎製作所

専攻科

NAIS株式会社
 NECフィールディング株式会社
 旭化成株式会社
 いであ株式会社
 いわき市役所
 株式会社大阪防水建設社
 株式会社クレハ
 株式会社クレハ分析センター
 株式会社建設技術研究所
 株式会社地圏総合コンサルタント
 株式会社東京建設コンサルタント
 株式会社ニュージェック
 株式会社福山コンサルタント
 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
 サントリーグループ
 西武建設株式会社
 中外製薬工業株式会社
 東京水道株式会社
 東京電力ホールディングス株式会社
 トヨタ自動車株式会社
 日信ソフトエンジニアリング株式会社
 日東電工株式会社
 パナソニックエナジー株式会社
 はるかぜ税理士法人河井事務所
 福島県商工会連合会浜通り広域指導センター
 福島県庁
 ヘキレキ舎
 三井住友建設鉄構エンジニアリング株式会社
 村田機械株式会社
 リニューアブル・ジャパン株式会社
 ルアール技術短期大学



校内体育大会



9月24日(火)・25日(水)、校内体育大会が盛大に行われました。競技はサッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ドッチボール、ソフトボール、綱引き、7種目で行われ、学年優勝と総合優勝を目指し各クラス白熱した戦いが繰り広げられました。

残暑厳しい中でしたが学生たちは、真剣かつ楽しんでプレーをしていました。各クラス・各学科の応援も相まって、大会は大きな盛り上がりを見せました。学年ごとでは、1年生は機械システム工学科、2年生は都市システム工学科、3年生は化学バイオ工学科、4、5年生は機械システム工学科がそれぞれ優勝し、総合優勝は機械システム工学科となりました。

本大会は、実行委員長の三瓶悠翔君(4年電気電子システム工学科)を中心とした実行委員会が企画運営を行い、各クラス体育委員と関係クラブの協力のもと、クラス内や友人との絆を深めるイベントとなりました。



第61回東北地区高等専門学校体育大会結果

■陸上競技 (男子)

学校対抗		第1位
400m	松本安友武 (4M)	第3位
800m	船山 優貴 (5T)	第1位
〃	草野 航輝 (2M)	第2位
〃	木村凌太郎 (4T)	第3位
1500m	草野 航輝 (2M)	第1位
〃	木村凌太郎 (4T)	第2位
〃	阿部 拓人 (5E)	第4位
5000m	佐藤 幹央 (4M)	第2位
〃	加藤 大輝 (3E)	第4位
〃	吉田 翔太 (2B)	第8位
110mH	山田 勇尊 (5B)	第2位
〃	渡部 旭 (4T)	第3位
4×100mR	(笠井、馬上、松本、下山田)	第3位
4×400mR	(船山、松本、馬上、山田)	第2位
走高跳	下山田陽登 (5C)	第1位
棒高跳	馬上 公佑 (3E)	第1位
走幅跳	下山田陽登 (5C)	第4位
〃	笠井 真夢 (5E)	第6位
三段跳	馬上 公佑 (3E)	第1位
〃	笠井 真夢 (5E)	第4位
やり投	松本安友武 (4M)	第2位

(女子)

学校対抗		第1位
100m	渋谷 柚那 (2C)	第3位
〃	三部 天花 (3C)	第4位
800m	渋谷 柚那 (2C)	第1位
〃	三部 天花 (3C)	第5位
走幅跳	遠藤こはる (1B)	第1位
〃	佐藤 璃佳 (4B)	第2位
やり投	國井 杏夏 (4B)	第1位
4×100mR	(遠藤、三部、佐藤、渋谷)	第2位

■バスケットボール (男子)

福島	56-104	秋田	最終結果
福島	101-54	仙台広瀬	第2位
福島	80-52	仙台名取	

(女子)

福島	49-100	秋田	最終結果
福島	53-48	仙台名取	第2位
福島	28-72	秋田	
福島	66-60	八戸	最終結果
			第2位

■水泳競技 (男子)

学校対抗		第1位
400m自由形	西山 遙人 (3M)	第1位
〃	重村 台知 (3M)	第2位
〃	根本 琉誠 (1T)	第3位
800m自由形	丹野 智晴 (2M)	第1位
〃	重村 台知 (3M)	第3位
50m自由形	松本 夢空 (1T)	第5位
100m自由形	松本 夢空 (1T)	第6位
200m自由形	丹野 湊斗 (3C)	第4位
〃	船山幸之介 (2C)	第7位
200m背泳ぎ	渡邊琥太郎 (2B)	第2位
〃	渡部 剛大 (3M)	第9位
100m背泳ぎ	渡邊琥太郎 (2B)	第3位
200m平泳ぎ	酒井 優磨 (3M)	第3位
〃	八木まなと (5M)	第4位
〃	草野 加偉 (1M)	第5位
100m平泳ぎ	酒井 優磨 (3M)	第3位
〃	八木まなと (5M)	第4位
〃	草野 加偉 (1M)	第5位
200mバタフライ	渡辺 周空 (1M)	第3位
〃	渡邊 瑞樹 (5M)	第5位
〃	根本 琉誠 (1T)	第6位
100mバタフライ	丹野 智晴 (2M)	第2位
〃	渡辺 周空 (1M)	第5位
〃	渡邊 瑞樹 (5M)	第9位

200m個人メドレー	西山 遙人 (3M)	第2位
4×100mフリーリレー	(松本・丹野・渡邊・西山)	第5位
4×200mフリーリレー	(松本・丹野・渡邊・西山)	第1位
4×100mメドレーリレー	(渡邊・酒井・丹野・西山)	第1位

(女子)

学校対抗		第2位
50m自由形	伊東 優希 (2B)	第5位
100m自由形	大谷 倫世 (2C)	第4位
〃	伊東 波 (5C)	第5位
〃	伊東 優希 (2B)	第6位
50m背泳ぎ	平山 亜美 (2B)	第2位
100m背泳ぎ	伊東 波 (5C)	第4位
100m平泳ぎ	南 花林 (2T)	第4位
200m平泳ぎ	南 花林 (2T)	第1位
50mバタフライ	大谷 倫世 (2C)	第2位
100mバタフライ	平山 亜美 (2B)	第4位
4×50mフリーリレー	(伊東波・平山・伊東優希・大谷)	第2位
4×100mフリーリレー	(伊東波・平山・伊東優希・大谷)	第2位
4×50mメドレーリレー	(伊東波・南・平山・大谷)	第2位

■バレーボール (男子)

予選リーグ	福島 2-0 秋田	Bブロック
	福島 2-0 一関	第1位
	福島 2-0 仙台広瀬	
決勝トーナメント	福島 2-1 仙台名取	最終結果
	福島 2-0 一関	第1位

(女子)

予選リーグ	福島 2-0 仙台名取	Aブロック
	福島 2-1 一関	第1位
決勝トーナメント	福島 2-0 秋田	最終結果
	福島 2-0 八戸	第1位

■ソフトテニス (男子)

団体戦		第2位
個人戦	猪狩 浩葵 (4E)	
	橋本 大知 (5T)	第3位

■テニス (男子)

ダブルス	赤津陽一郎 (1T)	
	小松 厚太 (2B)	第3位

(女子)

団体戦		第3位
シングルス	鈴木 聖奈 (4B)	第3位
ダブルス	佐藤 可菜 (5B)	
	鈴木 聖奈 (4B)	第2位

■柔道 (男子)

個人戦		
73kg級	八巻 龍成 (1C)	第1位
81kg級	大森 暖人 (1T)	第3位

(女子)

52kg級	関根 史織 (1M)	第1位
-------	------------	-----

■剣道 (男子)

団体戦		第1位
-----	--	-----

(女子)

個人戦	須藤 翠 (4C)	第2位
-----	-----------	-----

■バドミントン (男子)

団体戦		第3位
シングルス	新妻優之介 (1C)	第3位
ダブルス	吉田 侑太 (2C)	
	新妻優之介 (1C)	第2位

	柴宮 颯 (5E)		
	大谷 柊斗 (4T)	第3位	
(女子)			
団体戦		第2位	
シングルス	大石 愛陽 (3T)	第1位	
	永井 愛乃 (1B)	第3位	
ダブルス	小林 莉瑠 (4C)		
	大石 愛陽 (3T)	第2位	
	堀越 万由 (1C)		
	永井 愛乃 (1B)	第3位	
■卓球			
(男子)			
団体戦		第4位	

ダブルス	清野 雅仁 (3M)		
	大和田将寿 (3C)	第4位	
(女子)			
団体戦		第3位	
シングルス	永山 和奏 (2C)	第3位	
ダブルス	岡田 紗季 (4T)		
	永山 和奏 (2C)	第2位	
■サッカー			
	福島 1-0 秋田		
	福島 2-3 仙台名取		

第59回全国高等専門学校体育大会結果

■陸上競技			
釧路高専 (釧路市民陸上競技場)			
(男子)			
学校対抗		第5位	
800m	船山 優貴 (5T)	第3位	
〃	草野 航輝 (2M)	第6位	
1500m	木村凌太郎 (4T)	第7位	
〃	草野 航輝 (2M)	第1位	
5000m	佐藤 幹央 (4M)	第8位	
400mH	山田 勇尊 (5B)	第4位	
走高跳	下山田陽登 (5C)	第3位	
(女子)			
走幅跳	遠藤こはる (1B)	第4位	
4×100mR	(遠藤・渋谷・佐藤・三部)	第6位	

■バドミントン			
苫小牧高専 (苫小牧市総合体育館)			
(男子)			
ダブルス	吉田 侑太 (2C)		
	新妻優之介 (1C)	1回戦敗退	
(女子)			
ダブルス	小林 莉瑠 (4C)		
	大石 愛陽 (3T)	2回戦敗退	
シングルス	大石 愛陽 (3T)	1回戦敗退	

■バレーボール			
旭川高専			
(リクルートスタッフィング リック&スー旭川体育館)			
(男子)			
予選リーグ	福島 0-2 鈴鹿	予選リーグ敗退	
	福島 2-0 有明		
(女子)			
予選リーグ	福島 2-0 香川高松	予選リーグ敗退	
	福島 0-2 鈴鹿		

■テニス			
苫小牧高専 (苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場)			
(女子)			
ダブルス	佐藤 可菜 (5B)		
	鈴木 聖奈 (4B)	1回戦敗退	

■ソフトテニス			
旭川高専 (旭川市花咲スポーツ公園テニスコート)			
(男子)			
個人戦	猪狩 浩葵 (4E)		
	橋本 大知 (5T)	2回戦敗退	

■水泳			
北海道四高専 (函館、苫小牧、釧路、旭川)			
(北海道立野幌総合運動公園プール)			
(男子)			
400m自由形	西山 遙人 (3M)	決勝第5位	
〃	重村 台知 (3M)	決勝第21位	
800m自由形	丹野 智晴 (2M)	決勝第10位	
〃	重村 台知 (3M)	決勝第20位	
100m背泳ぎ	渡邊琥太郎 (2B)	予選第16位	
200m背泳ぎ	渡邊琥太郎 (2B)	決勝第6位	
100m平泳ぎ	酒井 優磨 (3M)	決勝第8位	
200m平泳ぎ	酒井 優磨 (3M)	決勝第6位	
100mバタフライ	丹野 智晴 (2M)	予選第10位	
200mバタフライ	渡辺 周空 (1M)	予選第11位	
200m個人メドレー	西山 遙人 (3M)	決勝第4位	
4×100mメドレーリレー	(渡邊・酒井・丹野・西山)	決勝第8位	

■剣道			
旭川高専			
(リクルートスタッフィング リック&スー旭川体育館)			
(男子)			
団体の部		第3位	
(女子)			
個人の部	須藤 翠 (4C)	2回戦敗退	

■サッカー			
函館高専 (函館フットボールパーク)		第3位	

■柔道			
(男子)			
個人戦			
73kg級	八巻 龍成 (1C)	第2位	
(女子)			
52kg級	関根 史織 (1M)	第1位	

■卓球			
釧路高専 (ウインドヒルくしろスーパーアリーナ)			
(女子)			
ダブルス	岡田 紗季 (4T)		
	永山 和奏 (2C)	3位決定戦敗退	

第70回福島県高等学校体育大会結果

■陸上競技			
(男子)			
800m	草野 航輝 (2M)	予選敗退	
1500m	草野 航輝 (2M)	予選敗退	
5000m	加藤 大輝 (3E)	予選敗退	
三段跳	馬上 公佑 (3E)	予選敗退	
(女子)			
800m	渋谷 柚那 (2C)	準決勝敗退	
■バレーボール			
(男子)		1回戦敗退	

■ソフトテニス			
(男子)			
団体戦		2回戦敗退	
個人戦	太田 仁志 (1B)		
	中平 麗斗 (1B)	2回戦敗退	
	宮澤 宏遙 (3E)		
	齋藤 耀里 (3E)	1回戦敗退	
(女子)			
個人戦	高崎ひなた (2C)		
	西澤 里紗 (2B)	2回戦敗退	

■卓球競技			
(男子)			
学校対抗	ダブルス	清野 雅仁 (3M) 王 優世 (2C)	1 回戦敗退
		大和田 将寿 (3C)	3 回戦敗退
	シングルス	柴田 晃希 (2C) 清野 雅仁 (3M) 王 優世 (2C)	3 回戦敗退 2 回戦敗退
(女子)			
学校対抗	ダブルス	永山 和奏 (2C) 仲村 香穂 (2B)	1 回戦敗退
	シングルス	永山 和奏 (2C) 仲村 香穂 (2B)	2 回戦敗退 2 回戦敗退
■剣道			
(男子)			
団体	個人	高原 圭吾 (3T)	2 回戦敗退 1 回戦敗退
■弓道競技			
(男子)			
個人競技	柳井 玲泉 (3B) 木村 悠杜 (2C)	準決勝敗退 予選敗退	
(女子)			
個人競技	斉藤 らこ (3B) 村上 芽泉 (3C)	予選敗退 予選敗退	
■バドミントン			
(男子)			
団体	ダブルス	伊藤 龍臣 (2M) 藁谷 優雅 (1E)	1 回戦敗退 3 回戦敗退

		吉田 侑太 (2C) 新妻優之介 (1C) 若松 祐希 (2M) 阿部 優哉 (1M) 高橋 幸汰 (2E) 一条 英汰 (1E) 新妻優之介 (1C)	2 回戦敗退 2 回戦敗退 1 回戦敗退 2 回戦敗退
	シングルス	(女子)	
	団体	掘越 万由 (1C) 永井 愛乃 (1B) 大石 愛陽 (3T) 永井 愛乃 (1B)	2 回戦敗退 3 回戦敗退 3 回戦敗退 2 回戦敗退
■水泳			
(男子)			
100m平泳ぎ	酒井 優磨 (3M)	第 3 位	
200m平泳ぎ	酒井 優磨 (3M)	第 2 位	
400m個人メドレー	西山 遙人 (3M)	第 5 位	
400m自由形	渡邊 琥太郎 (2B)	第 9 位	
1500m自由形	西山 遙人 (3M)	第 4 位	
1500m自由形	丹野 智晴 (2M)	第 7 位	
4×100mフリーリレー	(松本、丹野、酒井、西山)	第 8 位	
4×100mメドレーリレー	(渡邊、酒井、丹野、西山)	第 6 位	
4×200mフリーリレー	(松本、丹野、渡邊、西山)	第 5 位	
(女子)			
200m自由形	平山 亜美 (2B)	第 9 位	

各協会・連盟主催大会等

■卓球			
◎令和6年度全日本卓球選手権大会福島県予選会			
女子シングルス	永山 和奏 (2C)	1 回戦敗退	
女子ダブルス	永山 和奏 (2C) 仲村 香穂 (2B)	1 回戦敗退	
■硬式野球			
◎第106回全国高等学校野球選手権福島大会 1 回戦敗退			
◎第76回秋季東北地区高等学校野球福島県大会 1 回戦敗退			

福島県総合スポーツ大会結果

◎第77回福島県総合スポーツ大会			
■陸上競技			
(男子)			
800m	船山 優貴 (5T)	予選敗退	
三段跳	馬上 公佑 (3E)	予選敗退	
■ソフトテニス			
男子個人戦			
	住谷 勝 (1M) 緑川 智一 (1T)	1 回戦敗退	
■卓球			
(男子)			
団体戦	シングルス	王 優世 (2C)	2 回戦敗退 2 回戦敗退
		永山 和奏 (2C) 仲村 香穂 (2B)	3 回戦敗退 2 回戦敗退 1 回戦敗退
■弓道競技			
(男子)			
団体戦	近的競技	柳井 玲泉 (3B)	入賞圏外
	遠的競技	神永 知輝 (3T)	入賞圏外
	個人戦	安籠 治輝 (3B)	入賞圏外

東北高等学校体育大会結果

■水泳			
◎第72回東北高等学校選手権水泳競技大会			
(男子)			
200m平泳ぎ	酒井 優磨 (3M)	予選敗退	
400m個人メドレー	西山 遙人 (3M)	予選敗退	
4×100mフリーリレー	(松本、丹野、酒井、西山)	予選敗退	
	西山 遙人 (3M)	予選敗退	
	4×100mメドレーリレー	(渡邊、酒井、丹野、松本)	予選敗退
	100m平泳ぎ	酒井 優磨 (3M)	予選敗退
	4×200mフリーリレー	(松本、丹野、渡邊、西山)	予選敗退

各種大会等の結果

■将棋部			
◎第31回全国高等専門学校将棋大会			
団体戦	大塚 章最 (4C) 鈴木健太郎 (2E) 吉田 詩桜 (3M)	第 3 位	
■吹奏楽部			
◎第62回福島県吹奏楽コンクール大学の部 銀賞			
■演劇部			
◎令和6年度いわき地区高等学校演劇発表会 参加			
■茶華道部			
◎いわき学校茶道連盟第55回合同発表会 参加			

福島高専とF-REI～連携活動状況～

「福島浜通りを知るサマースクール」について

福島国際研究教育機構（F-REI）からの委託事業である「令和6年度福島浜通り地域におけるまちづくり研究及びラーニング・コミュニティハブ整備」の地域教育プログラムの一環として、8月20、21日の1泊2日で小中学生対象の「福島浜通りを知るサマースクール」を開催いたしました。初めて開催した取り組みで、県内から小中学生20名、保護者4名に参加いただくことができました。

1日目は本校での出発式後、「福島ロボットテストフィールド」と「會澤高圧コンクリート福島RDMセンター」の見学、宿泊先「いこいの村なみえ」での科学教室「風力で動くテオヤンセン機構の模型」の製作（本校機械システム工学科 小出教授）を行いました。また、夕食後には、飯館村を拠点として活動している合同会社MARBELiNGの矢野淳様を講師に迎え、アントレプレナーに関する講話を聴講しました。



2日目は、「東日本大震災・原子力災害伝承館」を訪問し、語り部講話の聴講・施設見学を行い、高専に戻った後、2日間の研修の振り返りとして事後学習に取り組み、最後に参加者ひとりひとりが発表を行いました。

参加者からは、「震災について理解できた」「最新の研究が知れて良かった」「普段できないことを体験出来て良かった。」との感想をいただきました。



令和6年度 エフレイ・QSTサイエンスラボ-夏休み応援企画、親子でワクワク科学実験-を開催



福島国際研究教育機構（F-REI）と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）が主催する令和6年度 エフレイ・QSTサイエンスラボ-夏休み応援企画、親子でワクワク科学実験-を8月10日に福島高専で開催いたしました。若い世代の人材育成を目的に、科学の楽しさを発進するサイエンスコミュニケーターの本田隆行さんが進行役、福島高専学生が指導役を務めました。小学4～6年生とその保護者の33組が参加し、ドローンのプログラミングや「霧箱」を使った放射線観察などの実験に取り組みました。

令和6年度 エフレイ・QSTサイエンスラボ
夏休み応援企画

親子でワクワク科学実験

科学コミュニケーターと福島高専の学生たちが
皆さんの学びをアシストします

参加者募集!

日時 2024年8月10日(土)
午前9時30分受付開始
午前10時開始、午後4時終了予定

内容 ①ドローンのプログラミング体験
②レゴでソーラーカー作り体験
③霧箱作成と放射線の観察実験

※ 午後に保護者向けのサイエンストーク(放射線の健康影響や
霧箱製作など)イベントから別になる身近なテーマ)を同時開催

場所 福島工業高等専門学校
(福島県いわき市北上型川中長尾30)

対象者 小学校4～6年生とその保護者

参加定員 親子30組(応募者多数の場合は抽選となります)

その他 内容は変更になる場合があります。
・昼食は各自でご用意ください。
・現地集合、現地開催となります。

【申込方法】 右のQRコードから申込みください。又は下記URLから申込みください。
<https://forms.gle/8888888888888888>

【申込締切】 2024年8月9日(金) 当日21時(日)までに受付締切の連絡いたします。

【お問い合わせ】 運営事務局(株式会社ベスコ)内
TEL: 024-524-0478
email: F2024@fukushima-u.ac.jp

主催: 福島国際研究教育機構
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

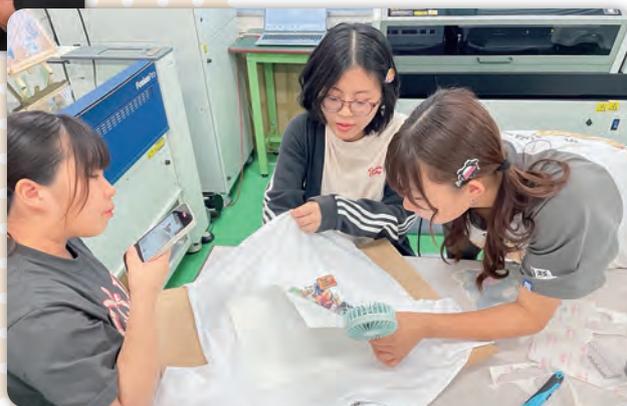
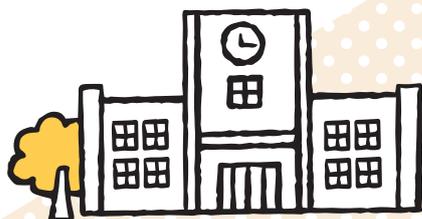
磐陽テックガレージ開所式

5月28日（火）、磐陽テックガレージ開所式を本校地域環境テクノセンター前で執り行いました。

磐陽テックガレージは、学生が学年・学科を問わず集い、楽しんでモノづくりを行うことができる創造活動のための工房スペースです。素材の加工・切削等を行う「工房」と音響設備・動画制作等を行う「スタジオ」で構成されています。文部科学省の公募事業「令和4年度大学改革推進等補助金（高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業）」によって整備されました。

開所式では、本校の田口校長から「学生たちが座学と実践を結びつける施設にしていきたい」と挨拶がありました。また、内田いわき市長の御祝辞を安藤副市長から代読いただき、続けて、庄司福島高専協力会長からも御祝辞を頂戴しました。

世界的大企業がガレージから始まったように、磐陽テックガレージが学生自らの可能性を広げる施設になればと期待しています。



B-Bridge International, Inc.との教育文化交流協定締結



5月20日（月）、本校とB-Bridge International, Inc.との教育文化交流協定締結式が執り行われました。

この協定は本校とB-Bridge International, Inc.が友好関係及びお互いに対する理解と教育・文化交流促進を目的としています。連携協力内容としては、(a) 教育・討論を目的とした教職員の相互交流 (b) 共同教育の展開 (c) 教育的及び文化的事業の展開・促進を予定しております。

また、本協定の締結に合わせて、福島高専初の海外拠点となるシリコンバレーサテライトオフィスが設置されました。学生の海外活動を支援し、より一層国際交流活動が活発化することを期待しています。

SDGs Webinarについて

B-Bridge International, Inc.が協力団体として参画するSDGs Webinarが今年も開催されます。SDGs Webinarは、持続可能な地域社会づくりに貢献できるような未来のエンジニアを育てること目的としています。学生自身が困難な状況に置かれた場合に「自分で創っていこう！」そう思える人材を育成することを目指す取り組みです。



プログラム

- 1 ワークショップ（全5回）
実際に起業した日本人講師、米国でエンジニアとして活躍している日本人講師を招いた講義・演習
- 2 「いわきヒューマンカレッジ（市民大学）：SDGs探求部」の聴講
- 3 最終発表会
グループ単位で周囲の問題発見や課題提起を行い、その解決に向けた独創的な新規ビジネスモデルを提案

シリコンバレー Study Toureについて



アントレプレナーシップの育成・グローバルな人材育成、およびプレゼンテーション能力向上を目指すプログラムで今年3月に実施されました。B-Bridge International, Inc.にコーディネートしていただき7泊9日という短期間で、イノベーションの聖地であるシリコンバレーを肌で感じ、体験し学ぶことができたプログラムでした。

福島高専磐陽寮食堂竣工式を実施

9月24日（火）、磐陽寮食堂の完成、供用開始を記念して同食堂で竣工式を執り行いました。

本校は、第一期校として昭和37年に開校して以来還暦を迎え、キャンパスが老朽化していることを踏まえ、持続可能な発展を可能とするキャンパスの再生に向けた取り組みが順調に続けられており、この度、その一環で寮食堂の竣工を迎えることができました。

これまでの寮食堂は、周囲が建物に囲まれた1階部分のみの食堂でありましたが、食堂自体を高台へ移設し、2階建てとすることで十分な自然光を確保できる、明るく開放的な共有スペースと整備されました。

竣工式では、本校の田口校長から「今後、この寮食堂を活用し、学生が学科や学年、国籍など様々な垣根を超えた交流がより発展していくことを期待している」と挨拶がありました。また、文部科学省大臣官房文教施設・企画部長からの祝辞を道端課長補佐が代読いただき、続けて、梶原高専機構理事からもご挨拶を頂戴しました。



オープンキャンパス・春杯 缶バッジデザインコンテストを実施

「磐陽テックガレージ」の正式名称決定のお知らせと知名度アップのため、学科学年を問わず誰もが参加可能な形として、缶バッジのデザインを考案するコンテストを実施しました。

最終的に全13作品の応募があり、5月11日（土）、12日（日）に開催されたオープンキャンパス・春杯において、中学生による人気投票を午前の部と午後の部に分けて行い、その得票数により順位を決定しました。表彰式は、5月29日（水）に本校小会議室で執り行いました。

【総合第1位（5月12日 午前の部・午後の部 第1位）】

ビジネスコミュニケーション学科4年 吉田 叶和子

【5月11日 午後の部 第1位】

機械システム工学科2年 村岡 央翔

【5月12日 午前の部 第1位】

ビジネスコミュニケーション学科4年 荒 菜恵

様々な大きさの歯車は磐陽テックガレージでは小さなものから大きなものまで多様なものづくりが出来ることを表しています。これからたくさんの人に愛され、ものづくりを通し人と人を繋ぐ場所になって欲しいです。



新入生歓迎会を開催

4月27日（土）、福島高専の学生主催の取組を新入生に知ってもらおうと、第一体育館にて、新入生歓迎会を開催しました。このイベントには、新入生、在校生の他に、イベントが公開授業の後に行われたことから、保護者も多数来場しました。

演目は、ストリートダンス部のパフォーマンス、無線通信部の活動紹介、学生団体によるバンド演奏で、各団体が会場を盛り上げてくれました。参加した新入生からは、「楽しかった」「最高だった」という声が多数聞かれました。



鉄道愛好会がJR常磐線沿線地域の清掃ボランティア活動をしました



6月8日（土）、本校鉄道愛好会のメンバーがJR常磐線の内郷駅からいわき駅付近（松ヶ岡公園駐車場）までの沿線地域の清掃ボランティア活動（ゴミ拾い）を実施しました。鉄道愛好会が清掃ボランティア活動を行うのは、昨年度の江名鉄道廃線跡の清掃活動に続き2年目となります。今回は、いわき市で実施している「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」の公共施設等の清掃活動日にあたったため、いわき市に実施団体として登録して行いました。

当日は、午前8時50分に内郷駅前を出発し、かつて「国鉄内郷操車場（内郷貨物ヤード）」があった内郷高坂町や内郷御台境町を通り、道路のゴミを拾って歩きました。今回のゴールとした「松ヶ岡公園駐車場」まで約4kmをおよそ3時間かけて歩き、昨年度とほぼ同量の約4.8kgのゴミを拾いました。

今回の活動に参加したのは、鉄道愛好会の学生8名と顧問1名の計9名です。

鉄道愛好会では今後も定期的に、清掃ボランティア活動など地域に貢献できる取組を実施する予定です。

本校学生がスタートアップウィークエンドいわきを開催

5月2日（木）～4日（土）、本校専攻科ビジネスコミュニケーション学コース1年の清藤杏加さんが主催したスタートアップウィークエンド（SW）いわきが、いわき産業創造館で行われました。SWは、2007年に米国でスタートし、これまで世界1200都市以上、日本では25カ所以上で開催されている起業家養成プログラムです。

今回のSWいわきは、福島県初開催であり、福島高専学生、長岡高専学生、社会人の参加者20名がチームを組み、全5チームでビジネスプランを創出しました。最終日の5月4日には、起業家へのビジネスプラン発表が行われ、審査の結果、福島高専学生がリーダーをつとめるチームが、1位、2位、3位を独占。1位には、本校ビジネスコミュニケーション学科4年 吉田叶和子さんと長岡高専3年生の「部活運営の課題解決アプリ」が輝きました。SWでは、紙上のプランではなく、実現性が重視されており、SWいわき開催中のSW参加者のSNSでの呼びかけに反応した福島高専学生が急遽各チームのサポートに加わり、様々な学年学科の学生が協働した実践的なプランが誕生しました。



短期留学生成果発表会



6月24日に、短期留学生の研究成果発表会を行いました。今年度本校ではフランス・技術短期大学（IUT）から4名、フィンランド・トゥルク応用科学大学から2名の学生を受け入れました。

短期留学生は4月から6月までの3ヶ月間、本校教員の指導のもと自らの研究テーマを設定し、研究活動に取り組みました。発表会では英語による発表と質疑応答を行い、評価のために来校したIUTの教員や本校指導教員等の前で研究の成果を発表しました。

海外派遣報告

①トビタテ！留学JAPAN ビジネスコミュニケーション学科3年 佐々木 朝子

私はトビタテ！留学JAPANプログラムの派遣留学生として、7月23日から8月16日の間デンマークの international people's college という全寮制の学校のサマースクールに参加しました。

午前中は英語の授業を受け、午後はデンマークの歴史や暮らし、政治などデンマークについて知ることができる時間がありました。パリオリンピックの開会式を講堂で集まって見たときに、自身の国が呼ばれたら立ち上がって歓声を上げ、他の人は拍手をしてみんなで盛り上がったことが印象に残っています。自分のアイデンティティに誇りを持ちながらも、他の文化への関心やリスペクトを持ち続けることが平和につながると思いました。



②シリコンバレーインターンシップ 電気電子システム工学科4年 山崎 えん

私はアメリカ合衆国カリフォルニア州にあるB-Bridge International, Inc.にて1週間ほどのインターンシップに参加しました。B-Bridgeはシリコンバレーのインフラを活用してビジネスを繋ぎ、世界中に日本の人材、技術、文化を広める懸け橋となることをビジョンとした企業です。

インターンシップでは現地で働く方の講義等でシリコンバレーでの歴史や技術、考え方を学びました。また、自分たちでビジネスを考えることで、講義で学んだことや現地でのフィールドワークで得た知識をアウトプットしました。様々な人とのつながりを作ることができ、充実したインターンシップになりました。



8RCCS への参加

4月24日～26日に、The 8th Regional Conference on Campus Sustainability (8RCCS)がマレーシアで開催され、一般教科本田崇洋教授が校長代理として基調講演を、ビジネスコミュニケーション学科渡邊エリカ准教授がワーキンググループのモデレーターを務めました。RCCSは本校が協力意向書を取り交わしているマレーシア・サバ大学が主として開催しているサステナブルキャンパスに関する国際会議であり、本校は第4回から教員や学生を派遣しています。

次回会議の9RCCSは2025年3月20日～21日に本校で開催する予定です。本校からも多くの教員や学生が研究発表できる場になるよう、準備を進めてまいります。

■アントレプレナーシップ■

SDGs Webinar 2024

SDGs Webinarは、学生へのアントレプレナーシップ（起業家精神）教育の一環としてB-Bridgeの協力のもと、本校が主催、長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学が共催で2020年から開催しています。今年度は10～11月にかけて全5回のワークショップを行い、12月に最終発表会を予定しています。

シリコンバレー Study Tour について

シリコンバレー Study Tourはアントレプレナーシップ・グローバルな人材育成およびプレゼンテーション能力の向上を目的として、B-Bridgeがアメリカ・サンノゼで学生を受け入れ実施している海外派遣プログラムです。令和5年度は3月17日～25日の期間で、福島高専・長岡技術科学大学の学生計17名が参加しました。学生たちは起業家の講義や企業・大学の視察、現地コミュニティイベントへの参加等を行い、最終日にはグループでプレゼンテーションを行いました。今年度も同プログラムを3月に開催予定です。

オープンキャンパスの開催

中学生と保護者の方がより福島高専を知ることができる機会を持てるように、今年度からイベントの見直しを行い、季節ごとに「オープンキャンパス」を開催しております。

オープンキャンパスの日程など

項目	開催日程	内容
春 旧：体験入学（9月実施）	5月11日(土)・12日(日)	5学科を知ろう！
夏 旧：わくわく体験授業	7月13日(土)・14日(日)	授業を体験しよう！
秋 旧：学校説明会（5月実施）	9月21日(土)・22日(日)	志望学科を見極める！
冬 オープンキャンパス・磐陽祭	11月2日(土)	磐陽祭を楽しもう！
出張オープンキャンパスin中通り 会場：ビッグパレットふくしま	5月26日(日)	5学科の説明と体験授業
出張オープンキャンパスin会津 会場：会津若松卸商団地協同組合	7月29日(月)	本校の概要説明

参加した皆さんが、各学科の特徴や授業の内容を知り、日頃から思っていた本校への疑問などが解決できる機会となり、興味や関心がより深まれば幸いです。



オープンキャンパス・春



出張オープンキャンパス in 中通り



オープンキャンパス・夏



オープンキャンパス・秋

KOSENFES2024の参加

6月23日（日）に国公立高専合同説明会（KOSENFES）2024が、学術総合センターで行われ、本校も参加し来場者の個別相談と模擬授業を行いました。模擬授業では①『インフレって何？』②『AIを活用した創作活動 make music♪』を来場者に体験していただきました。

今後も全国高専の中でも特徴のある「福島高専」をPRしていきます。



模擬授業の様子

学生学習支援センターの紹介

学生学習支援センターは主に低学年の学生を対象に数学、物理、化学などの理系基礎科目の学習支援と実験・実習科目の提出物作成の支援を目的として令和元年に設置されました。これらの科目は各学科で専門的な内容を理解し、研究を推し進めるうえで習得が必須とされますが、近年、つまりく学生が多くなっているのが現状です。そこで、今年度は工学系学科1年生を対象に放課後に数学の課題の作成時間を設けて、課題の提出や試験の対策などの支援を行っています。これらの支援がスムーズに基礎科目を習得するうえでの一助となることを期待しております。



医療機関との連携について

学生保健センター長 高橋 宏 宣

今年度、本校はいわき市医療センターに加え、公益財団法人磐城済生会との間で連携協定を締結しました。これにより、学生保健センターはいわき市医療センターと舞子浜病院の医師から学生の健康状態について助言を受けることができるようになりました。看護師二名、スクールカウンセラー2名とともに学生の心と体を見守って参りますので、ご心配なことがありましたら遠慮なく保健室にお知らせください。



“いわきおどり” 福島高専学生有志42名が参加

いわきの夏の風物詩「いわきおどり」が8月8日（木）に開催され、福島高専チームは「高専」法被をまとい、学生42名、教員3名が、活気溢れる演舞を披露しました。

今回のいわきおどりは、ビジネスコミュニケーション学科5年渡辺爽也さん、佐藤碧さんが中心となり、学校体育館での事前練習、衣装の法被準備、プラカード制作などを行い、万全の体制で当日をむかえました。

沿道には、多くの学生、保護者が観覧に訪れ、大きな歓声が上がリ、演舞後の学生は「楽しかった」と笑顔で話していました。今回のいわきおどりへの参加は、学年・学科の枠を越えた交流の機会にもなりました。



EVアカデミーの実施

いわきバッテリーバレー推進機構およびいわき市と連携してEVアカデミーを実施しました。これまで行ってきたモビリティの走行性能設計、モビリティデザイン等の講義とともに、新しい講義、「バッテリー関連産業の世界」を導入しました。また、いわき市内の企業見学ツアーも行う充実した内容となりました。

本年度は、福島高専生11名が参加しました。EVを中心とした次世代モビリティと自動運転化技術に関する講義を受講し、小型EVのPIUSの分解組み立てに取り組みました。分解組み立て作業には、これまでにEVアカデミーを受講した学生が作業補助者として参加しました。



福島高専学生がデザインなどを考案「アナデジサイネージ(看板)」を水害被災地区へ設置

都市システム工学科学生といわき市平第31区（下平窪）が協力し、アナログとデジタルの情報を融合した「アナデジサイネージ（看板）」を製作しました。同地区は2019年の台風19号で甚大な浸水被害を受け、その後、地区防災マップ、地区防災計画を策定していました。計画の中に福島高専からの意見を踏まえ、アナデジサイネージ（看板）の設置を盛り込んでおり、今回の製作となりました。

このサイネージは、デジタル情報として、スマホなどでQRコードを読み込むと河川の水位情報や気象情報、地区防災マップや台風19号による地区の水害状況がわかる写真を見ることが可能です。また、アナログ情報として、浸水の深さや洪水の流れの方向を表示しました。現在、地区内26カ所に設置が完了しています。

6月16日に行われた設置式では江尻光芳区長、松島良一市危機管理部長、菊地都市システム工学科長があいさつし、江尻区長、松島部長らが下平窪公民館に看板を設置しました。



松島部長と
都市システム工学科長菊地教授



アナデジサイネージを
設置している都市システム
工学科の学生

60周年記念事業として整備した KOSEN commonsのうち、 「ひだまりカフェ」の活用状況 についてご紹介します。



1

企業の方との 懇談・打合せでの活用

ひだまりカフェの活用事例として、企業の方々との懇談・打合せなどがあります。昨年度後期から、本科1～3年生を対象として、福島高専協力会会員企業を招いたキャリア教育がスタートしました。特別活動の時間を利用し、1クラスに対して50分の講義内容です。講義後には、企業の方々と教員の懇談会をひだまりカフェで行っています。学生が参加することもあり、企業の方からお話を伺うことでインターンシップや就職活動等に役立てることが出来ます。また、教員と企業の方が研究に関する打合せを行うスペースとしても活用されています。

2

学生の皆さんの 自主学習スペース

本校では自主学習の場所として、図書館棟の多目的学習ルームやコモンスペースを整備しております。ひだまりカフェもその一つとして、学生の皆さんの自主学習に利用されています。

授業の空き時間や放課後などにひだまりカフェで自主学習をされる学生さんもおられます。特に定期試験前などは多くの学生さんでカフェがにぎわっています。



3

課外活動などの 学生交流の場

ひだまりカフェにはキッチンも整備されています。このキッチンは、60周年記念事業募金への協賛品として、クリナップ株式会社様からご寄附いただいたものです。

6月13日には、ひだまりカフェのキッチンスペース利用開始を記念して、キックオフイベントが開催されました。キックオフイベントでは、田口校長が手作りした甘酒が参加した学生、教職員に振舞われました。多数の学生が訪れてくれたため、開始20分で準備された甘酒がなくなるほど盛況なイベントとなりました。キッチンを活用したクラス行事なども開催されており、学生さんや教職員の交流の場となっています。



中庭のプランター設置・ 磐陽会館のトイレを改修

昨年度、整備が完了した中庭にプランターが設置されました。校長先生の発案で、学生の皆さんの憩いの場となるよう学内環境整備の一環として設置されました。プランターの草花は、季節によって変えてあり、四季折々の草花を鑑賞することができます。

また、磐陽会館のトイレが本年度改修されました。これまで改修がされず古いイメージのトイレとなっておりましたが、学生の皆さんや来校者の方々がより磐陽会館にお越しいただけるよう、大規模な改修を行いました。女子トイレにはパウダールームを設置いたしました。

是非、本校にいらした際は中庭や磐陽会館にも足をお運びください。



売店 リニューアルオープン

磐陽会館にある売店が5月27日に「Yショップ福島高専店」としてリニューアルオープンをしました。リニューアルオープンを記念して開店セールを実施しました。日用品などの取り扱いの商品が増え、学内の皆さんにとってより便利な売店となりました。また、ホットスナックも購入できるようになり、多くの学生

さんが購入しています。学生の皆さん、教職員ともに多数が利用しており、大変賑わっています。



ひだまりカフェを
利用していた3年生の皆さんに
利用状況や感想などを
お聞きしました。

ひだまりカフェ利用者インタビュー

1 ひだまりカフェを利用する理由は何ですか？

教室と比べて静かで綺麗、暖かいからです。飲食しながら勉強ができ、おやつや飲み物売り場がすぐ近くにあるからです。

2 このカフェの勉強環境について、 気に入っている点は何ですか？

晴れた日は日光がよく入ってきますし、景色もいいと思います。明るさを調整したり窓の外を眺めたりして自分好みの環境で集中できるところが気に入っています。

3 カフェではどのくらいの頻度で勉強していますか？ 週1～3日くらいです。

1回の利用でどのくらいの時間を過ごしますか？
1～2時間程度です。

特に利用する時間帯はありますか？

授業終わりや空きコマがある時、放課後に利用します。テスト前の放課後に利用することが多いです。

4 カフェで主にどのような勉強をしていますか？

長時間集中できるので、専門科目の勉強やプレゼンの準備をしています。塾の課題を中心に勉強しています。

カフェでの勉強中に集中力を保つために工夫していることはありますか？

カフェで売っているコーヒーを飲むことがあります。

5 他の利用者との関係や交流について、 何か感じることはありますか？

みんなよく勉強しているなど感じますし、時間帯によっては空いてないときも多いです。

カフェで勉強している他の学生と 情報交換をすることはありますか？

同じ学科の先輩や同じクラスの子がいたら一緒にお勉強します。

1人の方が集中出来るので、情報交換などは余りしていません(笑)。



三主事・専攻科長あいさつ

近況報告



教務主事
緑川 猛彦

昨年度から引き続き教務主事を拝命しております都市システム工学科の緑川です。よろしくお願いいたします。

今年度は新学期から通常の授業を実施してきました。前期期末試験前に一部のクラスで新型コロナウイルス感染の報告が連続的にあり、遠隔授業への切り替えを準備しておりましたが、今のところ特別な対応を迫られることなく校内体育大会や4年生の学科行事も予定通り実施いたしました。

さて近年、変化する現代社会を生き抜くために、「与えられた問題を正しく解く」ことだけではなく、「自ら課題を発見し、自分事として捉えて解決する」能力や姿勢が求められるようになってきました。これらの教育は起業家に必要とされる精神や資質・能力の育成と同じであることから、アントレプレナーシップ教育が注目されるようになってきました。本校でも昨年度の後期より、アントレプレナーシップ入門(1年生)とアントレプレナーシップ実践(4年生)の講義をスタートしておりますし、進めていたモノづくり工房の名称も「磐陽テックガレージ」と決まりました。将来的には、学生自らのアイデアを磐陽テックガレージで具体的な形にし、それを元に起業してくれるアントレプレナーが生まれてくれることを期待しています。

楽しい学生生活を！



学生主事
笠井 哲

学生主事8年目となります、一般教科の笠井です。今年度4月に、イベントサークルが新入生歓迎会を初めて実施しました。7月に、学生会が「七夕飾り」を正面玄関と低学年棟玄関に設置し、8月には、有志学生が久しぶりに「いわきおどり」に参加しました。夏休み明けの9月には、「校内体育大会」を行いました。

保護者の皆様には、11月2日の「磐陽祭」をご覧いただいた方もおられると存じます。12月に、学生会が「クリスマス装飾」として正面玄関にクリスマスツリーと commons(中庭) にイルミネーションを設置する予定です。お子様が楽しい学生生活を送れるよう、支援して参ります。

さて、楽しい学生生活には、トラブルや悩みを解決する必要があります。そのため「チーム福島高専」は、スクールソーシャルワーカーやカウンセラー、弁護士、警察に加え、いわき市医療センターや磐城済世会松村総合病院といった地域の医療機関とも連携しています。近年の問題の原因の多くは、SNSです。対策として、福島県警察本部からサイバー犯罪対策課長(警視)を招聘し、8月に情報モラル講座「SNS利用上の注意について」を実施しました。

どうか本校を信頼し、お子様をお任せください。よろしくお願いいたします。

磐陽寮の近況報告



寮務主事
赤尾 尚洋

寮務主事も3年目となりました機械システム工学科の赤尾です。今年度の磐陽寮は4月に35名の新入寮生を迎え、在寮生185名でスタートしました。

寮内行事につきましてはコロナ禍以前の水準で実施できるようになり、寮の日常が大分戻って参りました。いくつか紹介いたしますと、新入寮生歓迎イベントとしてのスポーツ大会、寮食バイキングやカレー大会、体育館を利用したの大々的なビンゴ大会など、参加寮生の表情をみると非常に楽しめているようです。これらのイベントは寮生がみずから企画し、運営も担ってくれており、最後には反省会もして次回の開催に引継ぎも欠かさず行っており、大変に頼もしい限りです。施設面での変化としまして、新装された男子浴室が4月から利用開始となり、真新しい浴室設備で気持ちよく入浴できているようです。さらに9月には新食堂棟も営業開始しました。新食堂棟は2階建てとなり、高台に立地していることもあり見晴らしが良く、寮生も明るい雰囲気でお食事を楽しんでいるようです。

今後も磐陽寮では広く国内外から学生を受け入れ、様々な経験を通じて学生の成長につながるようサポートして参ります。保護者の皆さまにおかれましても、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

専攻科からはじめよう！



専攻科長
齊藤 充弘

みなさん、こんにちは。今年度の専攻科は、1年生23名、2年生20名で元気にスタートしています。

前期の授業もあっという間に終了しましたが、今年はフランスとフィンランドからの短期留学生が6名おり、専攻科棟内でも活動する姿を多くみることができました。例年以上に外国語が飛び交っており、交流することを通して語学や文化などの面でさまざまな学びや気づきがあったのではないのでしょうか。この夏休みには学外でのインターシップを実施したり、学会発表や留学に挑戦した学生もおります。ぜひ、専攻科での貴重な時間を多くのことに活用して、自らの知識や技術の修得につなげるとともに、たくさんの思い出をつくってほしいと思います。

夏季休業前の集会で、磐陽祭にむけた学年ごとの代表者を選出してもらいました。選出までに少々時間を要し、根気よく見守る時間帯となりましたが、学年ごとに輪になって和気あいあいと意見を交換し合う姿がとても印象的でした。これから本番にむけて、みんなで協力し合いながら楽しい思い出をつくってほしいと思います。明るく元気で、楽しい学生生活を専攻科からも発信していきたいと思いますので、ご家庭におきましてもご支援、ご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

各科の近況 [本科]

一般教科の近況

一般教科長 吉村 忠晴



一般教科の教員は、工学系・ビジネス系専門教育の基礎となる専門基礎科目と、エンジニアとして、ビジネスパーソンとして必須となる一般教養科目の授業を担当しています。

また、一般教科の教員は、1年生と2年生の学級担任を務めており、本校に入学した学生が、中学校とは異なる「高専」という新しい環境に順応して、高等学校とは異なる高等教育機関の「学生」としての自律（自立）的行動ができるように、サポートやアドバイスを行っております。

さらに、学生主事（学生・リスク対策担当副校長）の笠井先生（社会科）、学生保健センター長の高橋先生（国語科）を中心に、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとも連携して学生の生活面・メンタル面でもサポートをしております。加えて、学生学習支援センター長の宮本先生（数学科）のもと、1年生と2年生の学業面でのサポートをしております。

なお、この4月に物理・情報基礎担当の野澤先生（鹿児島高専との人事交流）と英語担当の伊藤先生が、一般教科教員として着任されました。新たな力を得て、一般教科の教員は、学生たちが充実した高専生活を送ることができるように、より一層努力してまいりますので、引き続き皆様方のご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

機械システム工学科の近況

機械システム工学科長 小出 瑞康



本年度より学科長を拝命しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

初めに教員の移動についてですが、今年の3月末に一色誠太先生が定年でご退職されました。先生は授業などの教育、研究に熱心に励まれました。一色先生の後任は採用されず、これまでよりも1名少ない体制で学科を運営していくこととなります。

授業実施の面では、製図科目において本格的に3DCADを活用することとなりました。これにあたって地元企業様から授業実施のご支援をいただいております、より実践的な教育を行

えるようになるかと考えています。また、機械システム工学科だけでなく高専全体としてスタートアップ教育を推進しており、選択科目ではありますが、1年生で「アントレプレナーシップ入門」、4年生で「アントレプレナーシップ実践」を履修することができます。これらの授業をとおして社会への関心を高め、専門の授業で学んだ内容をもとに新たな価値を創出していくマインドを身に付けてもらいたいと考えています。

5年生の進路状況につきましては、進学希望者が13名のうち6名が合格、専攻科希望者4名全員合格となっております。また、就職希望者19名中13名が内定しています（9/26現在）。今後も優秀な学生を育成するために機械システム工学科教員一同精励しますので、ご家庭からの御支援・御協力も引き続き宜しくよろしくお願い申し上げます。

電気電子システム工学の近況

電気電子システム工学科長 伊藤 淳



桜に迎えられた新学期から半年がたとうとしています。うだるような暑さが続いた夏も終わり、徐々に秋の気配が感じられる季節となりました。

新入生40名と3年生への留学生1名、4年生への編入学生1名は、すっかり学校にもなじみ、元気に活動をしています。卒業後の進路を決める進学活動や就職活動はピークを過ぎ、5年生の進路は、ほぼ決まっている状況です。4年生に行われるインターンシップでは、社会人になるための心構えを育成し、企業見学を行うことで、将来の自分の進路について意欲

を高めています。

例年多くの学生が電気工事士など各種資格試験に挑戦し、自己の資質向上に努めております。今年から、好成績を修めていた、デジタル技術検定が休止となり残念に感じています。学生一人一人が意欲をもって、勉学や課外活動に取り組んでおり、有意義な学生生活を送っているように見受けられます。

中学生対象に行われたオープンキャンパスでは、学生が主体となり、デモ実験や学科の概要等の説明が行われ、学生が活発に活動していました。

教職員に異動があり、嘱託教員として勤務されていた大槻先生が退職となり、非常勤講師を務めていただくこととなりました。また、鈴木先生がエネルギー関連の特命教授となり、エネルギーに関する教育の充実に携わっていただきます。今後とも、教職員一同が教育や研究に取り組んでまいりますので、保護者の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

各科の近況 [本科]



化学・バイオ工学科の近況

化学・バイオ工学科長 車田 研一

今年度の化学・バイオ工学科は昨年度と同じスタッフ布陣で運営しています。在学生の皆さんはそれぞれに努力され、それぞれにとって立派な成果を出されていることはとても悅ばしいかぎりです。学科も学校も、ほかのあまたの事業体と同様に、時の経過とともにためらわずに変化していかなくてはならない部分と、時流に惑わされず変化しないからこそ意義のある部分の両面をかかえています。そのような複雑かつ複相的なミッション下でも定常的に物事を建設的に進めるためには、我々自身が行動しながら自省的に考え続けるという自己修正回路を具えることが必須であり、また、その姿勢こそが在学生にこの学校で若き日々を過ごしていただくことへの最大のサービス要素だと考えています。このためにも、スタッフ相互のコミュニケーションと相互理解の努力が重要であり、そしてその成功が在学生にとって高専が良き学び舎であるためのカギであると痛感しています。制度創設から既に60余年が経つ高専と、その創設以来基幹学科として在り続けてきた化学・バイオ工学科が今後とも適切に変化しながら機能していけるよう、成員各人が最善の努力を続けますので、何卒御支援たまわりますよう、お願い申し上げます。



都市システム工学科の近況

都市システム工学科長 菊地 卓郎

今年度より学科長を拝命しております菊地です。どうぞよろしくお願いたします。

今年度は1年生42名が入学し、都市システム工学科の学生は206名でスタートしております。また、舗装工学・材料工学がご専門の増戸 洋幸（ましと ひろゆき）先生が着任されました。（詳しくは本校ホームページをご覧ください。）

5年生の進路状況ですが、クラス42名中、就職が20名、進学が22名となっており、就職先としてはゼネコン、建設コンサルタント、ライフライン系が多く、人々の生活を支える業界への就職を決めています。進学の多くは国立大学の編入学試験（推薦、学力）を突破し、さらなる学びの場へと進むこととなります。

様々な場面での学生の活躍も顕著であり、一例を挙げますと、第4回インフラマネジメントテクノロジーコンテストでのチャレンジ賞の受賞があります。こういった活躍に刺激を受けて、幅広い学年の学生がその活動に加わるという好循環が生まれており、今後のさらなる活躍に期待しているところです。

今年度も教員と学生が一体となって、教育・研究活動に励んでまいりますので、今後ご理解とご協力のほどよろしくお願いたします。



ビジネスコミュニケーション学科の近況

ビジネスコミュニケーション学科長 湯川 崇

今年度のビジネスコミュニケーション学科には新たに1年生41名が入学し、学科全体で198名の学生が在籍しています。昨年度まで大きな影響を与えていた新型コロナウイルス感染症も、今年度は完全に収束し、学生たちは通常通りの学生生活を取り戻しました。授業はもちろん、課外活動や学内行事も従来通りの形式で実施され、キャンパスには再び活気が戻ってきています。

夏休み中に実施された4年生のインターンシップでは、職場での実体験を通じて、実社会でのビジネスコミュニケーションスキルを磨きました。また、毎年恒例の校内体育大会も無事開催され、学年を超えた学生同士の交流が深まりました。現在は11月に開催される磐陽祭に向けて、各クラスやサークルが出展準備に励んでいます。

また、5年生は就職・進学に向けた活動が佳境を迎えています。今年は進学を希望する学生が多く、理系・文系それぞれの大学への編入試験に臨んでいます。文系の大学の試験はこれから本格化するため、現在も準備が進められています。

全員が希望する進路を実現し、充実した学生生活を送ることができるよう、教職員一同全力でサポートしてまいります。今後ともご支援とご協力をよろしくお願申し上げます。



増戸 洋幸

本年4月に着任いたしました増戸洋幸(ましと ひろゆき)と申します。いわき市で育ち、20年前に本校を卒業後、大学へ進学、民間道路会社での主に高速道路建設現場と研究所勤務を経て現在に至ります。建設業界の「リアル」を長らく体感してきた経験を基に、職業としての魅力と備えるべき知識や能力、ときに厳しさを…後輩たちに伝えていきたいと思っています。

私の研究室の扉は、在室時いつでも開けています。上記の「リアル」を聞きたい方はもとより、ちょっとした相談事から昔の高専秘話など、お話ししたい方は気軽にお越しください。



一般教科 野澤 宏大

野澤宏大(のざわひろまさ)と申します。今年の3月まで18年間、鹿児島高専で物理を担当していました。「もしかして鹿児島弁?」と思われるか

もしれませんが、そんなことはありません。私は、生まれも育ちもいわきです。

福島高専では、物理と情報基礎を担当しています。授業以外でも、学内で私の姿を見かけることもあるかと思いますが、その際はお気軽にお声掛けください。鹿児島弁ではなく、きちんとスペイン語で対応いたします。



一般教科(英語) 伊藤 有子

4月より一般教科(英語)に着任した伊藤有子と申します。郡山市生まれ、福島県で7年、茨城県で18年の教員を経て、今回郷里福島に戻って来ま

した。専門は英語教育で、背景知識やドラフトの違いによるライティングアウトプット研究や、AIを使用したライティング指導法の研究、そしてAIとシャドーイングを合わせた音声トレーニングの教材開発、スピーキングテストの開発に携わっています。高専生は、素直で真面目で課題に集中して取り組む姿が非常に素晴らしく、日々感銘を受けています。また留学生と共に学べる環境は、将来、国際的に活躍する皆さんにとって大変恵まれていると感じています。微力ですが、皆さんのお役に立てるよう尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



総務課長 新里 雄

令和6年4月1日付で総務課長として着任した新里 雄(しんざと ゆう)と申します。

3月まで勤務していた有明高専(福岡県大牟田市)に約14年、高専機構本部事務局(東京都八王子市)に約4年(2009年~2013年)勤務していました。

出身は沖縄で、学生時代も就職してから九州暮らしが長かったので、福島での初めての生活を満喫しています。

前任地では学生支援・出納・契約・人事労務・教務等の業務に従事してきましたが、これまで以上に幅広い範囲の業務を把握する必要があり、勉強の毎日です。

福島高専のために尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



総務課人事係 関根 悠真

令和6年4月1日付けで採用になりました関根悠真と申します。福島県会津若松市出身で育ちは郡山市です。本年3月まで福島大学で法学を中

心に学んでおり(日本近現代史ゼミに所属していました)、大学卒業後福島高専に参りました。浜通りでの生活は初めてで、新鮮な海産物を食べたり海水浴をしたりと、浜通りならではの生活を満喫しております。

社会人1年目でご迷惑をおかけしてしまうことも多々あるかと思いますが、1日でも早く皆さんのお役に立てるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



モノづくり教育研究支援センター
機械系ファクトリー

相澤 伴典

本年4月1日付けでモノづくり教育研究支援センターに着任しました相澤伴典と申し

ます。宮城県大崎市出身で、大学時代は山形県に住んでいました。その後、縁があり福島高専で働くことになりました。

わからないことばかりですが、日々の業務を通して多くのことを吸収し学生の皆さんの支援を行うことができると考えております。ご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、精一杯頑張っていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

行事予定(後期)

※新型コロナウイルス感染防止対策のため変更となる場合があります。

2024年

12月

12月7日(土) 福島県中学生ロボット競技会
18日(水) 学生会役員選挙
21日(土) 第9回廃炉創造ロボコン
25日(水) 冬季休業開始(1月6日(月)まで)
閉寮
26日(木) 学校閉鎖期間(1月4日(土)まで)

2月

2月3日(月)～4日(火) 後期期末試験期間
9日(日) 学力入試
12日(水) 後期授業最終日
13日(木)～17日(月) 補講期間
17日(月) 卒業研究発表会(電気・ビジコミ)
18日(火)～21日(金) 再試験期間
18日(火) 卒業研究発表会(ビジ)
19日(水)～20日(木) 卒業研究発表会(化学)
20日(木)～21日(金) 卒業研究発表会(都市)
28日(金) 終業式・寮送別会

2025年

1月

1月5日(日) 閉寮
7日(火) 授業開始
11日(土) 推薦入試
寮スポーツ大会
15日(水) 専攻科特別研究Ⅱ発表会(2年)
22日(水) 専攻科特別研究Ⅰ発表会(1年)
25日(土)～26日(日) 第18回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(東京都)
29日(水)～31日(金) 後期期末試験期間

3月

3月1日(土) 閉寮
14日(金) 卒業証書授与式・修了証書授与式(いわき芸術文化交流館アリオス)

入学試験の日程

専攻科

社会人 特別選抜	出願期間	令和6年11月15日(金)～19日(火)
	試験実施日	令和6年11月30日(土)
	合格発表日	令和6年12月5日(木)
	入学確約書提出期限	令和7年1月10日(金)

本科

一般推薦ならびに課題達成型推薦による選抜

WEB入力期間	令和6年12月3日(火)～12月18日(水)
出願期間	令和6年12月17日(火)～12月19日(木)
面接日	令和7年1月11日(土)
内定通知日	令和7年1月21日(火)
入学確約書提出期限	令和7年1月28日(火)

学力による選抜・帰国子女特別選抜

WEB入力期間	令和6年12月3日(火)～令和7年1月22日(水)
出願期間	令和7年1月20日(月)～1月23日(木)
検査日	令和7年2月9日(日)
合格発表日	令和7年2月19日(水)
入学確約書提出期限	令和7年2月25日(火)

一般推薦ならびに課題達成型推薦による選抜(追試験)

面接日	令和7年1月25日(土)
内定通知日	令和7年1月31日(金)
入学確約書提出期限	令和7年2月7日(金)

学力による選抜・帰国子女特別選抜(追試験)

検査日	令和7年2月23日(日)
合格発表日	令和7年2月28日(金)
入学確約書提出期限	令和7年3月6日(木)